

SHOW HEY シネマルーム



Data

監督：ミゲル・サボチニク
出演：ジュード・ロウ / フォレスト・ウィテカー / リーヴ・シユレイバー / アリシー・ブラガ / カリス・ファン・ハウテン / チャンドラ・カンタベリー

👁️👁️ みどころ

サブプライムローンが終わったら、20年後の今は人工臓器ローン問題が？アメリカの金融工学も大忙しだ。そこで活躍するのが人工臓器回収人 = レポゼッション・メンだが、その法的権限は？

それが若干不明確だが、それは本筋とは無関係。回収人から被回収人へ。そんな展開の中深まっていく矛盾は、どこでどう爆発するの？そこに注目！逃走から対決へ！ラストに向けて物語はそんな王道を歩むが、あっと驚く付け足しの展開の賛否は？

サブプライムローンとは？

アメリカ発の世界同時金融危機を引き起こしたのは、2007年7月に端を発したサブプライムローン問題。サブプライムローンとは、「プライム(prime:最良部)に準ずる」という意味で、過去に延滞履歴があるなどの理由で、ローンを貸しても延滞する可能性の高い(=信用リスクの高い)顧客層への住宅ローンを指す。これらのローンが証券化され、世界中の投資家にばらまかれた後に、当初想定していなかったような延滞が発生し、証券化商品の価格が暴落し始めたことが世界同時金融危機の原因だ(倉橋透・小林正宏『サブプライム問題の正しい考え方』中央公論新書4頁)

その次は、人工臓器？

世界のトップを走るアメリカの「金融工学」は次から次へとさまざまな金融商品を生み出しているが、今から20年後の近未来には、人工臓器ローンがはやっているらしい。つ

まり、その時代になっても臓器移植の需要と供給のバランスは一向に改善しなかったため、人工臓器移植をいち早く手がけたユニオン社は、今や心臓や腎臓、肝臓はもちろん眼球や鼓膜、膀胱まで、さまざまな商品を年利20%前後の高利で売り、莫大な利益をあげているというわけだ。本来の売買契約は商品の引渡しと代金の支払が同時履行の関係にあるが、ローン方式の確立によって住宅でも車でも先に商品を手にすることができていた時代を見習って、人工臓器もローンによって売買される時代に突入したわけだ。このように、アメリカ流の金融工学は滅ぶことなく、20年後もしぶとく生き残っていくらしい。

支払遅延の場合の措置は？

本作の原題は『レポメン』(REPO MEN)だが、邦題は丁寧に『レポセッション・メン』と表示している。これは、人工臓器回収人のことだ。日本が「失われた10年」あるいは「失われた15年」を経験せざるをえなかったのは、不動産バブルが弾け不良債権が大量に発生したため。そして、それへの有効な対策が早期にかつ十分にとられなかったためだ。

不動産ローンの返済が滞った場合は、不動産の競売手続によっていち早く不動産を第三者に売却して債権を回収する手続がある。ところが、競売時に不動産の価格が下落してしまっていると、不動産を売却しても債権の回収ができず、不良債権となってしまう。そのため金を貸しつけていた住専(住宅ローン専門の金融機関)をはじめ地方銀行、都市銀行等の金融機関が次々とアウトになってしまった。人工臓器売買だってキャッシュ取引ではなくローン方式をとる限り、支払遅延の可能性があるのは当然。しかも、ユニオン社はキャッシュ売買ではあまり儲からないため、ローンの金利で儲けているらしいから、金利は当然高い。したがってローンの支払を遅延する購入者が発生するのは当然。そこでレポセッション・メンが活躍することになるわけだが、さてその役割は？

商品回収におけるレポメンの役割は？

銀行には住宅ローン滞納者に対して競売手続を進める部署があり、必要あれば裁判所への手続を行っている。しかしユニオン社におけるレポメンは、いわば会社お抱えの商品回収専門部というところ。住宅ローンの競売手続と大きく違うのは、レポメンは自らの力でローン滞納者を探し出し、自らの力でこれを拘束し、自らの力でその肉体から人工臓器を取り出して回収することができること。つまり、20年後の人工臓器の回収については裁判所は関与しておらず、ユニオン社の自力救済が認められているということことだ。

レミー(ジュード・ロウ)とジェイク(フォレスト・ウィテカー)は兵役経験もある優秀なレポメンだが、彼らはいかにして合法的に人工臓器を回収するの?だって、人工臓器の一方向的な回収はその人の死を意味しているはずだからそれが映画前半の注目点だ。

映画の中では「一応伝えておくが・・・」と前置きしたうえ、「救急車の用意がいるかい

らないか」と質問するシーンがあるが、これは単なる形式だけ。レポメンたちの回収ぶりをみていると、最期通告を受けてなお未払いの購入者に対しては麻醉銃をはじめいかなる武器の使用もOKという実態だ。しかし、これでは、法治国家における回収手段と言えないのでは？

このように私の目には、購入者が支払遅延となった場合、レポメンがどんな法的根拠で購入者の人工臓器を回収できるのかの説明は不十分だ。人工臓器ローンとレポメンの活躍というテーマは面白いが、その法的裏付けがちゃんと見えないところが、弁護士の私には少し不満。



レポセッション・メン ブルーレイ&DVDセット
発売中

価格: ¥3,990 (税込)

発売元: ジェネオン・ユニバーサル・エンターテイメント

販売元: ジェネオン・ユニバーサル・エンターテイメント

©2009 Universal Studios. All Rights Reserved.

職業に貴賤なし？それともあり？

本作には『ブラックブック』(06年)ですばらしい存在感を見せたオランダの女優、カリス・ファン・ハウテン(『シネマルーム14』140頁参照)が、『ワルキューレ』(08年)に続いて、レミーの妻キャロル役で出演している。しかし、残念ながら本作でカリス・ファン・ハウテンはレポメンの仕事に精を出しているレミーを批判するだけのチョイ役。

「職業に貴賤なし」というもののそれは建前で、やはり清掃の仕事やゴミ掃除の仕事はイヤ？また、ヤクザまがいの債権取り立て屋やボン引きはイヤだし、近時問題となっている「ゼロゼロ物件」の「追い出し屋」の仕事もイヤ？人工臓器のローン滞納者を探し出して、麻酔銃を撃ち込み、その場で裸にして手術し、人工臓器を回収するというレポメンの仕事は血なまぐさいものだから、キャロルがそれを嫌ったのはある意味当然だろう。レミーは一人息子のピーター(チャンドラー・カンタベリー)を愛する良きパパであり、キャロルにとっても良き夫なのだが、キャロルはどうしてもレポメンの仕事が認められないらしい。

そこでキャロルが出した条件が販売係への転属だが、レミーはその決断をズルズルと延ばしていた。そこにはレポメンの仕事にトコトン喜びを見出している相棒のジェイクの影響もあったが、このままではレミーとキャロルの家族の崩壊は必至？そう思っていると、案の定・・・。

立場が変われば考え方も・・・

昨今はやりの「事業仕分け」劇場を見ていると、年収数千万円で天下りした元役人の考え方は役人時代と全く変わっていないことがよくわかる。ところが、弁護士の仕事は刑事事件では検事と対立する被告人の弁護人という立場で固定しているが、交通事故の民事事件では弁護士は加害者側についたり、被害者側についたりと変幻自在。また倒産事件でも、ある時は破産申立代理人になったり、ある時は破産管財人になったりと立場を自由に変えることができる。そこが多少なりとも柔軟な頭をキープできるポイントだろう。

そう考えると、兵役経験を生かしてレポメンとしてやりたい放題をやり、大きく稼いでいるレミーが、レポメンという一つの視点でしか物事が見えなかったのは仕方なし。いつまでも販売係に転属願いを出さないことに怒ったキャロルに家出されてしまったレミーは、遂にレポメンから足を洗う決心をし、今日はその仕事納めの日。ラストのターゲットは人工心臓をつけた有名歌手だが、いつもの手順どおりにやれば問題はなし。そのはずだったが、人工心臓を停止させるための電気ショック装置がショートしたため、レミーは吹き飛ばされ、あえなくも人生3度目の気絶。そして、病院のベッドで目覚めてみると、そこにはキャロルとユニオン社のボス、フランク(リーヴ・シュレイバー)が立っており、レミーの胸にはユニオン社の人工心臓が。

さあ、この人工心臓の値段はいくら？高いローン支払を避けてキャッシュで買い取るためには再びレポメンとして派手に稼がなくてはならないが、今やその仕事に直面するとメスをもつレミーの手は震えて動かなくなっていた。そのうえ妻のキャロルはピーターと共に完全別居で、何の手助けもなし。こうなれば、人工心臓のローン支払は？もし支払いが遅延すれば自分もレポメンから狙われる立場に？そんな風に立場が変わっていく中、ひょっとしてレミーの考え方も変わっていくの？さあ、ここから始まる本作の「社会派的」問題提起はいかに？

後半は、謎の歌姫がキーパーソンに

妻との別居生活を余儀なくされる中、ジェイクと一緒にいったクラブで偶然出会ったのがクラブ歌手のベス（アリシー・ブラガ）。レミーはベスが歌うもの悲しい歌に惹かれていたが、それはその歌詞とメロディがレミーの苦しい胸の内とピッタリ一致していたため？

後半はこのベスがキーパーソンとして登場するが、彼女は目も耳も喉の中も、さらに肝臓から膝に至るまで10カ所もユニオン社の人工臓器のお世話になっているらしい。その滞納額がいくらかは知らないがきっとかなりの額だろうから、ユニオン社にしてみれば重要債務者の1人だ。後半には、そんなベスを含む人工臓器購入者でローンを滞納している多くの人たちが集まる廃墟が登場する。これはいわば、昔の西成のあいりん地区であり、今風に言えば派遣村。そして、そこに逃げ集まった人たちの表情が一樣に暗いのは当然。そして、そこはかつてレミーがやっていたようにレポメンの恰好の草刈り場だが、そこではどんな人生論議がなされ、レポメンから逃れるためレミーとベスはいかなる道を選んでいくの？そこらは、あなた自身の目でじっくりと。

逃走から対決へ！驚くべき結末とつけ足しの展開は？

本作の問題提起は面白いが、テーマがテーマだけに映像のつくり方によってはマンガみたいになってしまう危険性もある。また、ジュード・ロウとフォレスト・ウィテカーという二大俳優を親友かつライバルのレポメンとして登場させた以上、この2人の対決が本作のクライマックス！誰もがそう思うはずだし、物語の後半はそのように進んでいく。逃げるレミーとベス、そしてそれを追いかけるジェイクという構図だが、どうも追いついたところでのジェイクの詰めが甘いのが気がかり・・・。

レミーの考え方が「攻撃は最大の防御なり」に切り変わったのは、自分たちの人工臓器がユニオン社に登録されている限り、いくら逃げようとしてもムダだと悟ったため。この状況下で考えられるレミーの攻撃とは、ユニオン社に乗り込んで人工臓器の履歴を管理



レボゼッション・メン ブルーレイ&DVDセット 発売中 価格:¥3,990(税込)
発売元・販売元:ジェネオン・ユニバーサル・エンターテイメント
©2009 Universal Studios. All Rights Reserved.

している中枢部を破壊してしまうことだが、そんなことがベスと2人でできるの？さあ、ここから怒濤のクライマックスに流れ込んでいくわけだが、苦勞の末にデータを管理する心臓部の中に突入した2人はどのようにして自分の履歴の抹消を？そこで予想されるのはパソコンのキーボードをたたくことだが、そんなシーンでは映像として全然面白くない。さあ、密閉された部屋の中で展開される肉の切り裂き合いとも、ラブシーンともとれる男女の格闘とは？

4月23日に観た『孤高のメス』(10年)では、長時間の脳死肝移植の手術シーンのリアルさにビックリしたが、本作でも短いシーンながら人工臓器を取り出すリアルな手術シーンが再三登場する。そして最後にはそれがまとめて登場するから、血の嫌いな人は少し目を背けた方がいいかもしれない。逃走から対決へ！その選択が正解だったことが今実証されようとしていたが、そこに訪れる驚くべき結末とは？ちなみに、本作にはその後もあっと驚くつけ足しの展開(?)が待っているから、それにも注目！しかし、その是非についての、あなたのご意見は？

2010(平成22)年5月22日記